



## No12 ちがいのある一人ひとりの成長を大切に！

— 違っていることは、劣っていることではありません —

ちょっと、まわりのおとなたちを 見てごらんよ。

みんな それぞれ ちがう仕事をしているね。

得意なことも苦手なことも、みーんなちがう。

ひとりひとりがちがっているのは、いけないことじゃない！

いろんな人がいて みんなそれぞれ ちがいがあるから、

世の中はおもしろい！

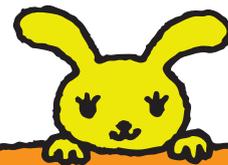


(落合みどり 著 宮本信也 医学解説 「十人十色なカエルの子」東京書籍より)

あるお子さんの今年度のめあては、「みんなと同じにする。」でした。

この言葉には、「みんなと同じに行動することを期待され、それに応えたいという切実な願いと、なかなかそうできない自分への戒め」の気持ちが込められているように思います。

特別な支援を必要とするお子さんの中には、常にこの葛藤を強いられ、自己肯定感が低くなってしまった例が数多くあります。「みんなと同じ」に安心するのは、お子さん自身よりも、むしろ周囲の大人なのかもしれません。



### 自己肯定感とは…

「自分は大切な人間だ」「存在価値があり、世の中や他の人にとって必要な人間だ」と思えること。

**自己肯定感を高めることは、意欲的な生活をする上で、大変重要なことなのです。**